

---

# 魔法少女まどか マギカ 機械仕掛けの黄金卿

小神悠一

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

魔法少女まどか マギカ 機械仕掛けの黄金卿

### 【Nコード】

N7798X

### 【作者名】

小神悠一

### 【あらすじ】

たった一人の友達を救う為、数多の時間軸をかける魔法少女、眺美ほむら。何度も同じ時間を巻き戻し、そして繰り返してきた迷える少女は新たな時間軸へとたどり着いた。…だが、それは謎の生命体によって地球は危機に晒され、そして魔法は人間によって制御されたほむらの全く知らない世界であった。魔法少女でなくても魔法の使えるようになったその理想郷で、魔法少女達は何を見る…

## プロローグ「サヨナラ・ヘヴン」

あなたと友達になれて、嬉しかった

みんな… 死ぬしかないじゃない！ あなたも、私もッ！！

バカな私を助けてあげて… くれないな

彼女だけでは荷が重すぎたんだ

あなたが歩いた昏い道に、望んだものに似た景色はあった？

遅かれ早かれ結末は同じだよ

たった一人でたった一人の友と交わした「約束」を果たそうとする少女がいた。

少女の名前は暁美ほむら。絶望の象徴である魔女と戦う魔法少女であるほむらは、誰にも頼ることなく、孤高の戦いに明け暮れていた。

「……」

見慣れた病院のベッドと病室。その手には、ソウルジェムと呼ばれる宝石が握られている。

「私は…」

黒のロングヘアを靡かせ、少女 暁美ほむらは、うつむきながらひっそりと呟いた。

……何度時間を巻き戻しただろうか。

一人の少女との出会いをやり直すために魔法少女となったほむら。

…だが、その出会いは決してよい物とは呼べなかった。

とある時間軸では、少女と共に魔法少女として魔女と戦った。…しかし、その少女は魔女へと姿を変えてしまった。

とある時間軸では、魔女となる事を恐れた者の暴走により、他の魔法少女と共に果てた。

とある時間軸では、未来を受け入れられず絶望してきた少女達が団結し、ようやく、「約束」を果たすことができると思った矢先に、少女が殺されてしまった。

他の者に頼る事なく、すべての魔女を自分一人で片付け、そして今度こそ超弩級の大型魔女をこの手で倒す。倒すはずであった。しかし、何度も失敗し、時間を巻き戻す度に仲間であった魔法少女とだけではなく、約束を交わした少女との気持ちはズレていき、言葉も通じなくなってしまう。

どうしたら。どうすればいいのだろう。

ソウルジェムを見ながらほむらはずっと考えていた。

「キョーコ!」

「……」

隣から、少女の元気な声が聞こえた。

隣のベッドでは、緑色の髪の少女が元気よく飛び跳ねていた。小学生くらいだろうか、幼さがかなり残っている。

かつて通った時間軸にこんな少女がいた気がする。名前は知らないが、その時は佐倉杏子と共に行動をしていたような記憶がある。そんな事を思いだしながら、ほむらはこれからの事を再び考えるが、数秒後、その少女の発した言葉にほむらは啞然とした。

「キョーコ………杏子?」

佐倉杏子。かつてほむらの仲間として共に戦っていた魔法少女。

好戦的な性格で仲間だった4人の魔法少女の中でも特に魔法少女

にふさわしい存在。

一体何が… と隣のベッドの緑色の髪の少女を見ると、病室のドアに覗き込む人影があった。

「ったく、心配したぞ」

「!？」

青い上着にショートパンツ。素足にブーツという少々奇抜な格好の赤いポニーテールの少女は、手に溢れるほどの林檎を詰め込んだ紙袋を持ちながら病室に入ってきた。

「どうして…」

それは佐倉杏子その人だった。

緑色の髪の少女に紙袋の林檎を渡す杏子の表情はとても晴れやかだった。

「どうして… あなたがここにいるの」

考えていた言葉が口に出してしまった。

本来ならば杏子はまだ、ほむらのいる病院や、見滝原町とは別の町にいるはずである。

それが、何故かこの病院にいる。しかも緑色の髪の少女と共に。

「…ゆま、こいつ、知り合いか？」

「うん、すつごく面白いおねえちゃんだよ」

どうやらこの世界での自分は、今隣にいるゆまと言つ緑色の髪の少女と親しかつたらしいが、そんな事はどうでもいい。

「キョーコはほむらおねえちゃんと知り合いな？」

「…いや、知らねえな。つつか、どういう事だ？ どうしてあたしがここにいるんだって…」

「…こちらの話よ、気にしなくていいわ」

ほむらは冷静に言い放つ。

「…そこまで言うんじゃないよ。…あたしは佐倉杏子、よろしく」

「…曉美ほむら」

「ゆまを可愛がってくれてたみたいだな。そのお礼だ」

「そう言って杏子は、紙袋から林檎を一つ取り出した。  
「食つかい？」

## プロローグ「サヨナラ・ヘヴン」（後書き）

とうとう書いてしまいました、まどかマギカの二次創作。

様々な所からネタを取り込んだ代物ですが、どうか温かい目で見守ってくれるよう、お願いいたします。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7798x/>

---

魔法少女まどか マギカ 機械仕掛けの黄金卿

2011年10月21日10時02分発行